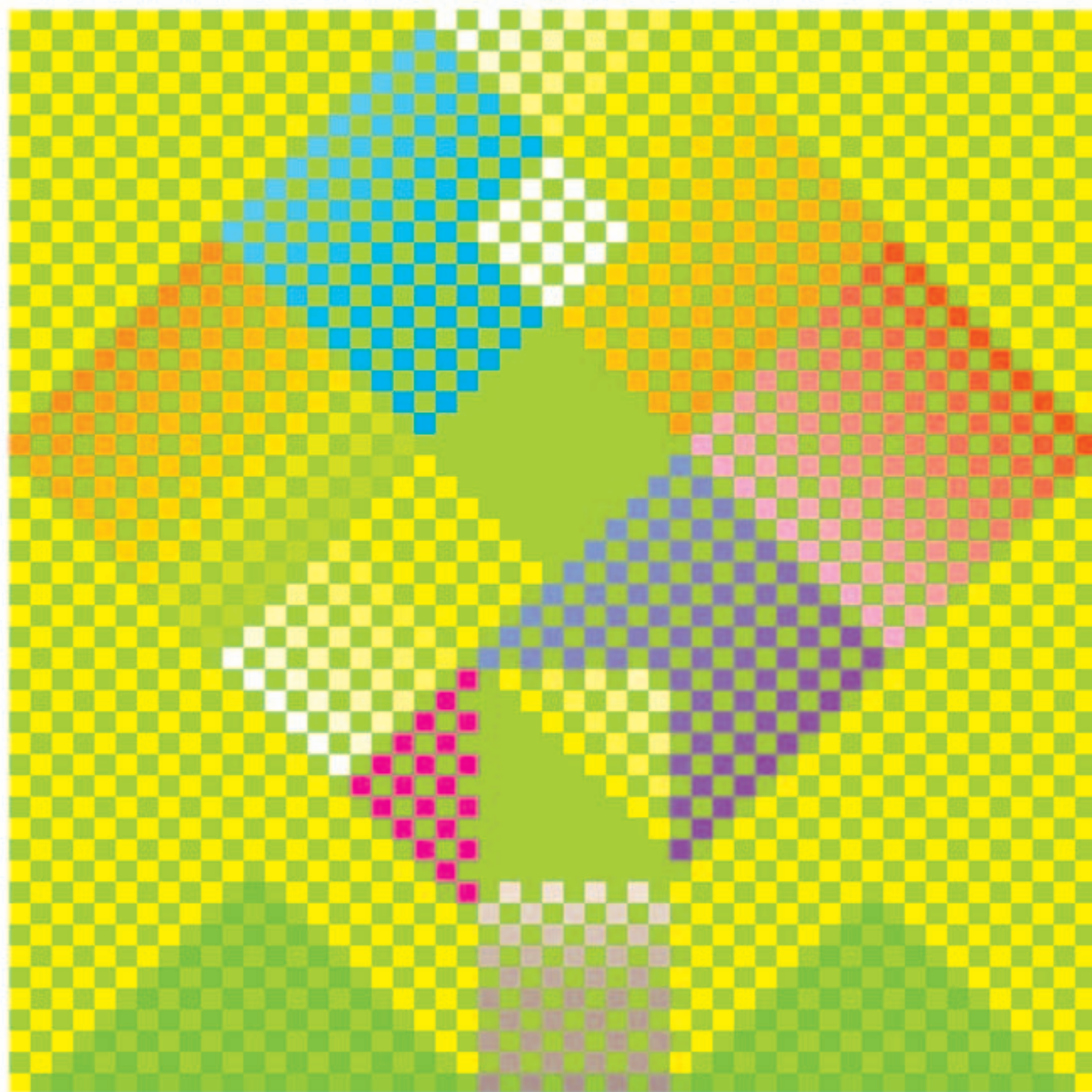


名古屋 文化情報

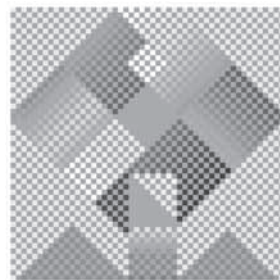
2011
7
Jul.

No. 328
NAGOYA
Cultural
Information



Contents

七月のうた..... 2
 随想 平松伸之 (美術作家)..... 3
 視点 メーグルに乗って名古屋観光 まとめ/酒井晶代..... 4
 この人と... 平塚芳朗 (下) 聞き手/飯塚恵理人..... 6
 ピックアップ..... 8
 おしらせ..... 9



表紙

作品

「GRADATION FIELD 1」

(2011年)

ドットの色を徐々に変化させることでグラデーションを生み出しています。一部が透明に見えたり、色彩が積層されているように見えたりと、視覚的な効果を模索しています。

村田直哉 (むらた なおや)

1968年三重県生まれ

愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了

1996年第4回メキシコ国際ポスタービエンナーレ銀賞受賞

2003年名古屋市文化振興事業団芸術創造賞受賞

現在、名古屋造形大学准教授

七月のうた

ヒメジヨオンの咲くころ

梅田卓夫

散歩道にヒメジヨオンが咲いている。

この花を見ると思い出すことがある。

60年もまえのこと。

幼なじみのシヨウジクんと橋を渡って

いた。チガヤの堤防にヒメジヨオンが

ゆれていた。坂を上ると、大きな土塀の

家。中からピアノの音がきこえている。

二人で塀にもたれてしゃがんでい

と、シヨウジクんがつぶやいた。

「ジェノバの商人コロンブス……」

(お兄さんから聞いたのだろうか)

するとぼくらは白い帆船を見た。川は

たちまち海になり、対岸にはスペイン

やポルトガルの白い家々を見た。

そんなことがあつて間もなくのこと、

シヨウジクんは一人で木曾川に溺れ死

んでしまった。

「あるとき、ぼくらはたしかに帆船を

見たよね？」

ヒメジヨオンの咲くころがくると、思

い出す。二人の秘密、といったわけでは

ない。けれど、シヨウジクんがいなく

なってしまうので、確かめようがな

い。

長年、散文詩に惹かれてきました。いわゆる「歌う詩」とは違い、一見普通の文章と見える叙述の中に、一昧ちがう詩の心やリズムを実現しようというものです。目立たないけれど現代詩の一分野です。(日本現代詩人会)

随想

ある美術作家の日韓交流展奮闘記



ひらまつ のぶゆき

平松 伸之（美術作家・プラスギャラリープロジェクト代表）

以前から個展を開催したりお世話になっている、大阪の非営利活動法人キャズから「前に話していた日韓交流展をしたいので手伝ってほしい」と連絡があったのは昨年春。「ああ～、そんな話をしてましたっけ？」と気の抜けた返事をしながら記憶の糸をたぐり寄せると、「韓国との交流展おもしろいですよ」と飲み会の席で言った気がする。大学の先輩の依頼を無碍に断るのは、義理と人情を重んずる私のポリシーに反するので、即引き受けることに。日韓交流展は私が代表をしている「プラスギャラリープロジェクト」がスタートした年から継続してきた企画で、韓国のコンテンポラリーアート業界とのパイプ役を自負する私は、酔った勢いで交流展のおもしろさを力説した模様。

韓国との交流は、ギャラリーの運営メンバーがソウルで親しくなった韓国の作家を招待した2003年夏の個展がきっかけ。たまたま私が韓国語ができたり、その時の作家がソウルのオルタナティブアートシーンにネットワークを持っていたことで交流が一気に加速、その年の冬には日韓若手作家の交流展をソウルと名古屋でそれぞれ開催することになった。

以来日本で韓国作家を紹介したり、韓国で日本作家を紹介したりと継続的に交流を続けてきたが、2009年冬に区画整理でギャラリーが取り壊されてからはめっきり機会が減ってしまっ

ていた。そんなところへの依頼だったので、実は渡りに船。早速、ソウルに住む知り合いの作家兼企画者に電話して協力依頼。韓国作家の選抜とソウルの会場手配をお願いして日本5名、韓国5名のグループ展を大阪とソウルで開催することに。

しかし、韓国側の予定が次々に変更になるのが日韓交流の常。今回も作家の変更が来日直前まで続き、案内状に載せた作家から変更になったりした。ソウルの会場もなかなか決まらずに断念しかけたが、何とか交渉して無事に日韓でグループ展を開催できた。

日韓の作品の違いは大雑把に言うと、自己の内面世界と向かう日本と、自己を取り巻く世界に向かう韓国という傾向。どちらも自分に向き合っているという点では共通しているのだが、追求する方向の違いが作品に反映されていて興味深い。今回も幼い頃の母との関係を象徴する山盛り料理の写真を見せた日本作家、街中のカラフルな飲み屋のドアを集めた写真作品の韓国作家と、アプローチの違いが見られておもしろかった。

今後もお互いを写す鏡として交流活動を続けていこうと思っている。もちろん自分自身の作品制作も大切なただけど。

メーグルに乗って名古屋観光

メーグルをご存知だろうか。正式名称は「なごや観光ルートバス メーグル」。その名のとおり市内の観光名所を巡回する路線バスで、この7月で運行開始から満4年を迎える。私事で恐縮だが長年、名古屋に住んでいるものの、名古屋城にも出かけたことがない。そこで一念発起。普段とは違う「観光地として名古屋」を体験してみようと、このバスに乗って小旅行に出かけてみた。
(まとめ: 酒井晶代)

日曜の朝、午前10時

当日は爽やかな好天。日曜ということもあり、名古屋駅前の発車場所(バスターミナルが改装工事中のため、現在は市バス8番のりば)に到着すると、すでに20名ほどが並んでいた。案内係の交通局の方の姿も見える。筆者もそうだが、メーグルへの乗車は初めてという人も多いのだろう。並んでいる人々のいでたちや会話から早くも旅行気分が伝わってくる。その後も行列はかなり伸び、10:10の発車時には車内は満席。立っている方も大勢いて車内は賑やかだ。



メーグルは名古屋駅を出発し、次のルートで運行している。月曜のみ連休だが、火曜から金曜の平日は30分~1時間おきに、土日と休日は20~30分おきに走行している。

名古屋駅(出発)→産業記念館→ノリタケの森→名古屋城→徳川園・徳川美術館・蓬左文庫→文化のみち二葉館→市政資料館南→名古屋テレビ塔→広小路栄→広小路伏見→名古屋城→ノリタケの森→産業記念館→名古屋駅(終点)

土日や休日の一部の便にはガイドボランティアが乗車し、沿線の見どころについて説明してくれる。今回の便にも黄色(金色か?)のベストを着用したボランティアさんが同乗しておられた。メーグルという名称は「名所をぐるっと」「名古屋をめぐる」に由来するんですよといったお話を伺っているうちに、あっという間に「名古屋城」の停留所に到着した。

名古屋城では実験中

園内はちょうどつつじが満開で、お城の周りを散策するだけでも充分なのしい。長い行列に何だろうと近づいてみると、「おもてなし武将隊」の出陣を待つ女性たちで、写真撮影の順番を待っている様子。話題になっているのは知っていたが、大変な人気だ。武将のデザインを取り

入れた奇抜なファッションに身を包む若い女性も大勢見かけた。みんな連れ立って楽しそう。

天守閣でいちばん印象に残ったのは、金鯨グッズが



ずらりと並んだ展望室の土産物売り場だ。武将グッズも数多く並んでいるが、金鯨の存在感はやはり圧倒的。ガラスケースのなかのキラキラした、どこか懐かしい感じがする土産物をひとつずつ眺めていると、時間を忘れそうになる。下の階では「実験中」の看板を見かけた。U字型の通路が設置してある傍らに「この上を靴のまま歩



いてください」と書かれている。本丸御殿の復元に向けて、畳の保護財を選ぶための実験なのだという。城内には復元工事の見学コーナーもあり、名古屋城は目下大きく変身中である。

特別仕様のメーグル

最初に乗ったメーグルは普通の市バスと同じ仕様だったが、ここ名古屋城から再び乗ったメーグルは特別仕様の専用車。車内にディスプレイがあり、ボランティアさんだけでなく映像でも観光案内をしてくれる。座席も凝っており、お城や金鯨、自動車やテレビ塔などを織り込んだ布が使用されている。二葉館も徳川園も魅力的だったが、迷った末につぎは「市政資料館南」で降りることにした。一日乗車券(「メーグル1DAYチケット」)大人500円、小児250円)を購入すれば終日乗り放題なので、行き先変更も気軽にできる。またこのチケットには一部観光施設や飲食店の特典もセットされており、オプションでいろいろ楽しめるので有効に活用し

たい。

ほとんどの停留所は施設のすぐ近くにあるのだが、市政資料館は停留所名に「南」と付いているとおり建物とバス停とが少し離れている。方向音痴の筆者は少し迷いそうになったが、ここで役立ったのが最初の乗車時にもらったパンフレット。時刻表はもちろんのこと、施設案内や各エリアの地図、バリアフリー対応状況などが載っており便利だ。先述の特典に関する情報もこのパンフに詳しい。



見ごたえのある常設展示

市政資料館の建物は、1922（大正11）年から79（昭和54）年まで裁判所として用いられたもの（当初は名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所。のち名古屋高等・地方裁判所）。国の重要文化財に指定されており、裁判をモチーフにしたステンドグラスが見事だ。また1989（平成元）

年には市政資料館として整備され、現在は公文書の保存・公開のほかに展示を通して市政のあゆみを紹介している。



新旧ふたつの顔を持つ建物ゆえ、11室ある常設展示室も「建築」「市政」「司法」をカバーしており非常に充実している。とくに明治から現在にいたる名古屋発展の歩みをたどった第4～7室の市政展示には見ごたえがあった。展示資料によれば、1889（明治22）年、市制施行当時の名古屋市の面積はわずか13.34平方キロメートルで、人口は15万7,000人ほど。その後、明治40年には熱田を、さらに大正10年には隣接する16の町や村をそれぞれ合併。戦後も1950年半ばから60年代にかけて天白・守山・鳴海などを編入し、1970年までに人口が200万人を突破したという。公文書のほか、新聞記事や地図、絵はがきなどの展示物から名古屋の街が飛躍的に拡大、発展していく様子を追体験することができた。各展示室には解説プリントが置いてあり、それらを全て集めると一冊の展示案内が完成する。

運転手さんの名調子に聞きほれる

周辺で昼食を済ませて、再びメーグルへ。今度はボランティアさんが乗っていない便だった。先ほどのような専用車でもなかったのが普通の市バスを利用する感覚で乗り込んだのだが、まもなく運転手さんのアナウンスが始まってびっくり。市政資料館から栄方面へ向かう車中

では100メートル道路の歴史を、また中日ビル交差点ではドラゴンズの球団事務所がビル内にあることなど、マニアックな(?)エピソードもまじえつつ丁寧に沿線案内をしてくださった。さらに名古屋城の付近では、運転手さんの説明に助けられながら高台に築城されていることを体感できた。風景がよく見渡せて、土地の高低もつかみやすいバスならではの楽しみだ。

テレビ塔にも心ひかれたが、市政資料館で名古屋市の産業のあゆみを学んだので、今回は車窓から塔を眺めるだけにしてノリタケの森へ。

都心にひろがる森

ここも初めて訪れる場所で、その広さにまず驚いた。「ノリタケの森」という名前のとおり、ショールーム、ミュージアム、ギャラリー、工房、カフェ、レストラン、公園などが集まる複合施設で、屋外で読書をしたり、散策を楽しんだりする人も大勢いらっしゃる。明治時代の工場跡をそのまま生かした赤レンガの建物や、新緑の美しい木立を眺めていると、ここが都心であることを忘れそうになるほどだ。

クラフトセンター内にあるミュージアムは戦前から戦後にかけての洋食器を多数所蔵しており、訪問時には「碗皿物語」と題してカップ&ソーサーが200点ほど時代別に展示されていた。かつての煙突がモニュメントとして並びたつ広場ではこい



のぼりが気持ち良さそうに青空を泳ぎ、その向こうには名古屋駅前の高層ビルが大きく見える。100年の時間差をこえて時代の最先端がコラボレーションした風景を味わった後、16:45「ノリタケの森」発のメーグルで名古屋駅へ。10時から17時までの小旅行はこれにて終了。

欲張ってあちこち回るつもりだったが、それぞれの場所に見どころが多く、終わってみれば3箇所しか訪問できなかった。まだ「めぐる」域にはとても達していないあと反省。それでも普段とは違うバスに乗り、未知の場所を訪問することで旅行気分を堪能することができた。今回の小旅行を機に名古屋観光の変遷に興味が出てきた。戦前のガイドブックなどを参考に、いつか記事にできたらと考えている。

〈公式ウェブサイト〉

- ・ なごや観光ルートバス メーグル
<http://www.ncvb.or.jp/routebus/>
- ・ 名古屋城
<http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/>
- ・ 文化のみち二葉館（ページ内に市政資料館の案内も掲載）
<http://www.futabakan.city.nagoya.jp/>
- ・ ノリタケの森
<http://www.noritake.co.jp/mori/>

この人と...



箏・尺八 演奏家・作曲家

ひら つか よし お

平塚 芳朗 (竹號: 晃山) さん 下

名古屋から世界へ 一現代邦楽の創造と普及

前号では、幼少期から箏・尺八を学び19歳で作曲家・演奏家として独立して、テレビ・ラジオで活躍し、バーンスタイン氏に実力を認められた30歳までの平塚氏の歩みを紹介した。今号では晃麗邦楽会を率いて名古屋を拠点にしながら、世界に新しい邦楽をひろめて精力的に海外公演を続ける、現在までの歩みをたどる。

(聞き手：飯塚恵理人)

財団法人晃麗邦楽会の設立

平塚芳朗氏は昭和30年代前半には作曲活動、演奏活動が認められ、テレビ・ラジオへの出演が多くなっていた。このことは箏曲の底辺を拓けることになり、弟子の大幅な増加につながった。平塚氏は両親が率いてきた尺八の晃山流と箏曲の麗明社を1966（昭和41）年に合同団結して、財団法人晃麗邦楽会を設立し、30歳にして初代理事長となった。そして、その3年後の1969（昭和44）年に晃山流尺八二代目宗家「晃山」を襲名する。また麗明社箏曲二代目家元も継承し、名実ともに一門の長となった。父である初代晃山師はこの後、「晃翁」を

名乗り演奏活動を続けた。西園流尺八の岩田西園氏は、「初代晃山師の豪快な演奏は未だに耳に残っている」と筆者に語られたことがある。初代晃山師と麗明都志子師の録音はアサヒレコードとサロン



コントラバスの世界第一人者 ゲイリー・カー氏（左から2番目）とジョイントコンサートで国内巡演、同年テレビ出演と、CDアルバムが東芝EMIからリリースされた（1989年）

レコードのSPで残っているとのことである。貴重な資料なのでいつか拝聴させていただきたいと思う。

意欲的な音楽活動の展開

また平塚氏の演奏のLPレコードも1968（昭和43）年から東芝EMIより「現代箏曲シリーズ」として8枚が全国にリリースされた。東京・名古屋において毎年定例公演を開催し、1970年代には日本舞踊にも曲を提供されている。「歓喜」は1970（昭和45）年に日本舞踊の内田流初代家元 内田るり子氏の委嘱による曲である。

また1974（昭和49）年には、アメリカ合衆国に初めての海外演奏に行き、6ヶ所で巡回公演をしている。1981（昭和56）年には邦楽人として初めてベルギー・フランダース



初の海外コンサート、アメリカ合衆国巡回公演（1974年4月18日～5月6日）のうちのロサンゼルス公演

国際音楽祭に招待されるなど、1987（昭和62）年までにアメリカ・フランス・中国などで27回、海外公演を行っている。箏・尺八と洋楽器を組み合わせた平塚氏の新しい感覚の作品は、海外でも高い評価を受けた。

愛知県芸術文化選奨文化賞受賞と外務大臣表彰

このような活動が評価され、1987（昭和62）年財団法人晃麗邦楽会は愛知県の芸術文化選奨文化賞を受賞する。受賞時の業績概要には「昭和41年設立以来、邦楽のより一層の向上と発展を目指し、現代邦楽の創作に意欲的に取り組み国内公演のみならず海外公演、放送、レコード活動などを積極的に行い、その演奏は高い評価を得ており、本県芸術文化の振興と向上に貢献し、今後もその活躍が期待されている」とある。団体受賞ではあるが、平塚氏の作曲と演奏活動が高く評価されていたことは疑いない。

そして翌年1月には、小澤征爾氏の一期前にバーンスタイン氏のアシスタントを務めていたケネス・シャーマホン氏が音楽監督を務める香港フィルハーモニックオーケストラから招待され、「香港芸術節」で平塚氏の作品「交響詩：富士」を香港シティホールにて共演。続いて日本公演が名古屋・東京で開催された。秋にはドイツ「ベルリンフェスティバル」に招待され、ドイツ・オランダ各地を巡回、12公演を果たしている。



コンサートでの箏4面演奏
（ポーランド国立放送交響楽団とのジョイントコンサートにて 1996年）

その後、1995（平成7）年から翌年にかけてポーランド国立放送交響楽団と国内外で共演し、「交響詩：富士」、「箏コンチェルト」のCDアルバムをリリース。そして1998（平成10）年にはアメリカでユタ交響楽団と共演するなど、100を超える旺盛な海外公演による諸外国との友好親善を評価されて、2000（平成12）年に外務大臣表彰を受けられた。数多い海外公演の中で、特に印象に残っている公演について伺った。「どれも印象深い…」とされた上で、特に2006（平成18）年のブータンでの公演をあげられた。首都ティンブーにて日本・ブータン国交樹立20周年記念特別公演をブータン国立テレビ中継により開催。日本代表として平塚芳朗と晃麗邦楽会が公演したもので、これは名古屋を拠点とする邦楽グループが、この地で初めての公式行事で演奏したという意味でも特筆すべきことだった。



日本ブータン国交樹立20周年記念特別公演（2006年）

晃麗邦楽会の次世代の養成と期待

平塚氏のアンサンブルでは常に妻の麗明里江英氏の共演を得ており、3人の子どもに恵まれているが、いずれも箏曲のプロとして活動されている。平塚氏は、「これからは自分たちの世代の感性で、新しい邦楽を創造してほしい」と語られた。長女の麗明佑美香氏は編曲を手掛けており、夫君がシンセサイザー奏者であることもあって、新しい楽器を邦楽に取り入れての合奏に熱心に取り組まれている。長男の平塚雅朗氏は次期家元に内定しており、演奏と弟子の養成に熱心に取り組まれている。次女の麗明三佐氏は、中国琵琶の一流奏者・涂善祥氏との共演などで活躍している。4人のお孫さんも稽古を始め、将来が楽しみである。



箏尺八ファンタスティックコンサート（2010年10月 長久手町文化の家 森のホール）
左から麗明里江英氏、麗明佑美香氏、平塚氏、麗明三佐氏、平塚雅朗氏

インタビューを終えて・・・

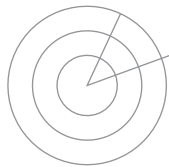
平塚氏は半世紀以上にわたって、名古屋の箏・尺八界で作曲家・演奏家として、大きな足跡を残してきた。インタビューしていて感じたのは、この方は本当に音楽が好きなのだということだ。どんなジャンルでも、世界のどんな楽器とでも、尺八や箏と合うと思われたら先入観なしにそれにふさわしい曲や催しを企画される。この旺盛な好奇心と情熱に敬服した。

今年、平塚氏が名古屋で演奏される催しを紹介し、インタビューを終えさせていただきたい。平塚氏のますますのご活躍と、平塚氏の音楽が、名古屋の次世代と世界の人人々に普及し受け継がれることを、心よりお祈りしている。

11月27日(日)13:30開演 ウィルあいちウィルホールにて
名古屋定例コンサート 演目:オーケストラと共演による
「交響詩:富士」、「箏コンチェルト」などを予定
「平塚芳朗と晃麗邦楽会」ホームページ:
<http://www.hiratsuka-korei-hogakukai.org>

(了)

ピックアップ



トヨタアートコレクション

今年1月8日から3月27日に豊田市美術館で開催された「Art in an Office」。これは、豊田市にある企業が所蔵する美術品約80点を紹介する展覧会で、その第2部を構成していたのはトヨタ自動車株式会社が所蔵する現代アート46点による「トヨタアートコレクション」だった。

「トヨタアートコレクション」は2006年から始められた社内プロジェクトで、新しい美術表現に触れるという趣旨のもと、若手作家による絵画や版画、写真などの平面作品を購入して社内に展示しようというもの。プロジェクトのきっかけは、06年に豊田市にある本社本館が、翌年には名古屋駅前の名古屋オフィスが相次いで新社屋となったことだった。これまで応接室に飾るのは近代絵画が中心であったが、最新のビルには近代絵画よりも現代アートが相応しいとの考えから、新社屋の会議室や応接室に飾る平面作品の収集が総務部主導でスタートした。

初年度に購入された14点は名古屋オフィス内応接室に、次年度の12点と08年の10点は本社本館応接室に、そして09年と10年には5点ずつ集められ東京本社応接室に飾られている。購入の際に新作を要望したわけではないが、展示される空間を意識

して制作されたものもあり、トヨタセンチュリー（初期型）が描かれた杉戸洋による《Century》（2007年）や、海岸沿いの道路に立つカーブミラーに道路と自動車映るさまを捉えた奥井ゆみ子の《Seaside》（2007年）は、自動車メーカーらしい作品だ。

社内に現代アートがあることに対して、社員やお客様からは「会議室の雰囲気や和らぐ」「お客様との話題にもなるのでいい」と概ね好評だという。話を聞いた担当者も「コレクションをとおして現代アートが身近になり、展覧会に行く機会が増えた」と語るように、日常的に目にすることで興味が広がった社員も少なくないのではないだろうか。

5年計画でスタートしたプロジェクトは昨年で終了となったが、社内アンケートでの評価なども踏まえて今後の展開を検討していくという。この取り組みは社内に飾る作品の購入を目的としたものだが、学芸員や美術評論家などで構成される推薦委員、選考委員との懇親会や、カタログの作成をとおして若手アーティストの支援にもつながっているのは確か。地元経済をリードする企業によるこうした取り組みが、この地域の芸術・文化の底上げにつながることを今後も期待したい。（T）



蜷川実花
《Everlasting Flowers》2005年



花代
《Untitled》2004年



染谷亜里可
《Decolorーベンローズの壁》2007年

『ショートストーリーなごや』ショートフィルム上映

名古屋に関連する映画を上映する「名古屋シネマフェスティバル2011」において、名古屋を舞台にした短編小説コンテスト『ショートストーリーなごや』第3回受賞作品を原作に、公募で選ばれた気鋭の監督が撮影したショートフィルムを上映します。(名古屋初公開)

日 時 7月9日(土)～15日(金) 会 場 伏見ミリオン座

上映作品 『揺れに揺られて、揺られてゆらり』(監督:真壁幸紀/原作:南木連波)
『桜の街のドーナツショップ』(監督:栗本慎介/原作:山野井春絵)
『記憶のひとしずく』(監督:畑中大輔/原作:深見恵美子)

料 金 「名古屋シネマフェスティバル2011」入場料
前売り1,200円 当日1,500円 学生・シニア1,000円
※ショートストーリーなごや映像化作品のみは無料上映

問い合わせ 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団
TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386



「揺れに揺られて、揺られてゆらり」

伝統文化シネマ鑑賞会7・8・9月

日本の伝統文化を未来に一人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。優れた無形の伝統文化を記録した映画を月1回、各文化小劇場にて上映します。

日時・会場・上映作品

7月7日(木) 14:00～ 南文化小劇場

- ①人形 「人形作家 秋山信子-心やすらぐ人形を-」
(38分・2001年完成)
- ②陶芸 「人間国宝 伊勢崎淳 備前焼の心とわざ」
(33分・2007年完成)

8月17日(水) 14:00～ 東文化小劇場

- ①染織 「芹沢銈介の美の世界」
(35分・1984年完成)
- ②漆芸 「変幻自在-田口善国・蒔絵の美-」
(36分・1993年完成)

9月21日(水) 14:00～ 天白文化小劇場

- ①陶芸 「備前焼 伊勢崎淳の挑戦-伝統と革新のはざまで-」
(33分・2007年完成)
- ②福岡 「ふるさとからくり風土記-八女福島の燈籠人形-」
(31分・1987年完成)

料 金 無料(当日先着順)

問い合わせ 南文化小劇場(定員:394名) TEL 052-823-6511 FAX 052-823-6512
東文化小劇場(定員:349名) TEL 052-719-0430 FAX 052-719-0440
天白文化小劇場(定員:350名) TEL 052-806-8060 FAX 052-806-8050

主 催 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団/財団法人ポーラ伝統文化振興財団



人形・人形作家 秋山信子



漆芸・田口善国



福岡・ふるさとからくり風土記

ワンコイン名作映画シリーズ ミナミシネマvol.10

南文化小劇場で2ヶ月に1度なつかしの名画をワンコインで観るシリーズの第10弾は、「禁じられた遊び」を上映します。

日 時 8月16日(火) 13:30

会 場 南文化小劇場

上映作品 「禁じられた遊び」(1951年/1時間22分)

料 金 <全自由席> 一般 500円
事業団友の会会員 450円(前売のみ)
※未就学児の入場はご遠慮ください。

問い合わせ 南文化小劇場
TEL 052-823-6511 FAX 052-823-6512

【あらすじ】

1940年6月の南仏。パリは独軍の手に落ち、郊外に避難する市民にナチの爆撃機が襲いかかる。逃げた愛犬を追いかけた5歳の少女ポーレット(フォッセー)は、この時追いかけてきた両親を機銃掃射で亡くし、同時に死んだ愛犬を抱きながら避難の群れから外れ彷徨う。小川の辺に来たとき11歳の少年ミシェル(プージュリー)と出会い、ミシエルの家で暮らすことになる。



NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2011

中高生から社会人バンドまで幅広いステージを展開し、多くの市民の皆さんにビッグバンドジャズを楽しんでいただきます。特に、プロアーティストと学生たちとの共演は見所の一つです。ぜひご来場ください!



日時・会場

7月30日(土)
 オアシス21会場 13:00~19:55
 テレビ塔会場 16:00~20:20

7月31日(日)
 オアシス21会場 13:00~19:55
 テレビ塔会場 16:00~19:45

料金

無料 ※一部ライブハウスを除く。

ウェブサイト

<http://groovin-nagoya.com/>

問い合わせ

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団
 TEL 052-249-9387
 FAX 052-249-9386

ゲスト

オアシス21会場

7/30 (土) 中西俊博 & 伊賀拓郎デュオ



7/31 (日) カルロス菅野 スペシャルコンボ



テレビ塔会場

7/30 (土) 仲田美穂 CORAZON LATINO



7/31 (日) The Links Jazz Trio with 市原ひかり



あつたモーニングコンサート Op.36

Guten Morgen! パパ ハイドン! ~Quartet Atomの弦四案内~



2010年3月に小淵沢で行われた、岡山潔氏主宰の小淵沢室内楽セミナーにて、最優秀カルテットとして「緑の風 音楽賞」を受賞するなど、多方面で活躍中の「Quartet Atom」。弦楽四重奏の名曲の数々をお楽しみいただく素敵なコンサートです。

日時 7月21日(木) 10:30 **会場** 熱田文化小劇場

出演 Quartet Atom
 [平光真彌 (1stヴァイオリン) 新谷歌 (2ndヴァイオリン)
 吉内紫 (ヴィオラ) 山際奈津香 (チェロ)]

曲目 ハイドン/弦楽四重奏曲 Op.76-2「五度」全楽章、
 弦楽四重奏曲 Op.1-1「狩」より第1楽章
 モーツァルト/弦楽四重奏曲 K.458「狩」より第1楽章 他

料金 一般 1,000円 <全自由席>
 事業団友の会会員500円 (前売りのみ・2枚まで)
 ※未就学児の入場はご遠慮ください。



問い合わせ 熱田文化小劇場
 TEL 052-682-0222
 FAX 052-082-0220

舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 エーワン・ビテオ・システム
 TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム部門
 AV機器販売部門 (家庭用)
 映像企画・制作部門
 放送関連部門
 機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る
 生きた情報を発信

TVS 株式会社 東海ビデオシステム
 名古屋市中区上筒井二丁目14-15 TEL.<052>322-6541 (代表) 6562 (営業部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

AV 株式会社 エーアンドブイ
 〒464-0846
 名古屋市中区千種区城木町二丁目98
 TEL 052 (761) 5400
 FAX 052 (761) 0909

名古屋市民芸術祭2011主催事業 名古屋市民文芸祭

短歌、俳句、川柳、詩、エッセイ、童話・児童文学の作品を次のように募集します。

【短詩型部門】〈第62回名古屋短詩型文学祭〉

募集内容 《一般の部、小中学生の部》

【短歌】2首以内 【俳句】2句以内 【川柳】2句以内
【詩】2編以内

用紙等／短歌、俳句、川柳…

はがき、ジャンル別に1名1枚に限りませぬ。

詩…400字詰原稿用紙、1編50行以内

審査員 名古屋短詩型文学連盟会員

【エッセイ部門】《一般、小中学生の区分はありません》

募集内容 1名1編に限りませぬ。(400字詰原稿用紙3枚以上5枚以下、ワープロ・パソコンの場合は1ページ20字×20行で作成)

「写真」(題名ではありません)をテーマにしたもの、または自由題。

審査員 内藤洋子・藤田正明

【童話・児童文学部門】《一般、小中学生の区分はありません》

募集内容 1名1編に限りませぬ。(400字詰原稿用紙3枚以上10枚以下、ワープロ・パソコンの場合は1ページ20字×20行で作成)

審査員 井上寿彦・藤真知子

【記入事項】

共通／①部門名およびジャンル名を朱書

②郵便番号・住所・氏名(雅号・ペンネームがあれば併記し、いずれもふりがなを付記)・電話番号

※エッセイ、童話・児童文学については別紙に記入してください。

※雅号・ペンネームを併記された場合、作品集には雅号・ペンネームで掲載します。

③点字作品は訳文を添付

小中学生／上記に加え、学校名及び学年を記入してください。
※学校単位での応募は次のことに注意してまとめてお送りください。

- (1) 必ず部門・ジャンル別にまとめてください。
- (2) 短歌、俳句、川柳は、はがき大の用紙で結構です。ただし、詩は原稿用紙を使用してください。
- (3) 1作品ごとに学校名、学校所在地及び電話番号、学年、氏名(ふりがな)を記入してください。

【注意事項】

- ・作品は近作、未発表に限りませぬ。盗作、類似作品、二重投稿は、入賞・佳作決定後でも取り消します。
- ・応募作品は返却しませぬ。

【募集期間】

8月22日(月)～9月4日(日)〈消印有効〉

【送付先】

〒460-8799

郵便事業(株)名古屋中支店留

名古屋市民文芸祭「〇〇」係

※部門名およびジャンル名を記入

【賞】

【短詩型部門】

《入賞》名古屋市長賞・名古屋市会議長賞・名古屋市教育委員会賞・名古屋市文化振興事業団賞・名古屋短詩型文学連盟賞・中日賞

《佳作》作品集に掲載します

【エッセイ、童話・児童文学】

《入賞》名古屋市長賞・名古屋市会議長賞・名古屋市教育委員会賞・名古屋市文化振興事業団賞

《佳作》作品集に掲載します

【発表】

入賞および佳作の方には、10月中旬ごろに、各人あてに通知します。(学校単位での応募は各学校あてに通知)

【授賞式】(どなたでも参加できます)

日時：11月20日(日) 14:00

場所：東文化小劇場

内容：入賞作品の表彰、ワンポイントアドバイス、審査員との交流会

【作品集の刊行】

各部門の入賞・佳作作品及び審査講評を収録した作品集(1部700円税込)を刊行します。

【問い合わせ】

(公財)名古屋市民文化振興事業団文化振興部
名古屋市民文芸祭 係

TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386



ナゴヤ・アート・ナビ 催し物掲載のご案内

▶ <http://www.art758.jp>

「ナゴヤ・アート・ナビ」ウェブサイトでは市内文化施設の催事案内のほか、市民主催の催し物の情報をご紹介します。

掲載を希望される方は、ホームページ(www.art758.jp)にアクセスしてお申し込みください。ご応募お待ちしております。

☎名古屋市民文化振興事業団 052-249-9385

ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい!

使う! 創る!

観る!

名古屋市民文化振興事業団 『友の会』会員大募集

エンジョイコース(年会費3,000円)

- ・事業団主催公演や提携事業のチケット割引!
- ・情報満載の「友の会だより」などを毎月お届け!
- ・提携ショップでのお買い物の優待割引!
- ・会員の皆さまが参加できるイベント開催!など

クリエイティブコース(年会費15,000円)

- 上記エンジョイコースに加え、次の特典も受けられます。
- ・会員主催の公演チラシを事業団施設に無料配布!など

詳しくは、事業団「友の会」事務局まで TEL 052-249-9385

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人(椋山女学園大学文化情報学部教授)

小沢優子(名古屋音楽大学講師)

倉知外子(オクダ モダンダンス クラスタ副代表)

酒井晶代(愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)

田中由紀子(美術批評/ライター)

はせひろいち(劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報は、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

芸術創造センター 創造活動サポート公演 演劇公演「ゴッホのためのレクイエム」

家庭の温もりを求めながら、一生得られなかった寂しさ。貧困と病苦。神を慕いながら、教えに背いて自死する苦悩。ゴッホのこの世は地獄でした。ゴッホは何故、決して美しい花とはいえないひまわりや極貧に喘ぐ農民を描いたのでしょうか。

名古屋の演劇人が結集してゴッホの魂の叫びに迫ります。



日時 7月22日(金)[2回公演] 15:00/18:30
7月23日(土)[2回公演] 14:00/17:30

会場 芸術創造センター

出演 【22日】深山義夫 伊沢勉 益川京子 近藤 博 他
【23日】小澤 寛 市川太一 古池鱗林 天野鎮雄 他

料金 1階席一般4,000円
2階席一般3,000円<全自由席>
※事業団友の会会員は1割引

問い合わせ 芸術創造センター TEL 052-931-1811 FAX 052-931-7145

春風亭小朝・林家正蔵 二人会

2年ぶり春風亭小朝と林家正蔵の小劇場ツアー開催です。名人の呼び声高い小朝師匠と、次世代を担う噺家・正蔵師匠の二人会。お近くの小劇場で、聴きごたえのある落語をお楽しみください。

日時・会場	9月27日(火)	9月28日(水)
	【昼の部】14:30 中村文化小劇場	【昼の部】14:30 緑文化小劇場
	【夜の部】18:30 東文化小劇場	【夜の部】18:30 熱田文化小劇場

出演 春風亭小朝 林家正蔵 他

料金 3,800円<全指定席>
※事業団友の会会員は300円引
※未就学児の入場はご遠慮ください。

問い合わせ ナディアパークプレイガイド TEL 052-265-2015



春風亭小朝



林家正蔵

古武道—KOBUDO—コンサート

昨年10月に開催したコンサートが大盛況だったKOBUDO-古武道-が、今年も名古屋にやってきます！東京都交響楽団首席チェロ奏者・古川展生、様々なアーティストに楽曲を提供しているピアニスト・妹尾武、邦楽界の貴公子・尺八奏者の藤原道山。それぞれ異なったジャンルの第一線で活躍する3人による、完売必至の公演をぜひお見逃しなく！

日時 10月21日(金)18:45
会場 アートピアホール[ナディアパーク11F]

料金 4,000円<全指定席>
※事業団友の会会員は1割引
※未就学児の入場はご遠慮ください。

問い合わせ ナディアパークプレイガイド
TEL052-265-2015

